

# 富山県

モデル圏域 高岡圏域、砺波圏域

症状が改善されれば退院することが当たり前であると誰もが考えることができる地域になる。

富山県では、精神障害者が自身の意向に即して充実した生活を送ることができるよう、医療・保健・行政関係機関が目標を共有し、在宅生活が可能な程度に症状が改善されれば退院するという当たり前のことが実現されるよう地域移行・地域定着支援を推進する支援体制づくりや医療・保健・福祉の連携推進を担う人材の育成に取り組んできました。精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業も活用し、これまでの各圏域の取組みを強化します。

## 1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 長期入院者患者数の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科病院へ精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業の目的、管内長期入院患者の現状を説明</li> <li>・圏域の精神科病院の長期入院者の退院者数を把握するための集計表を作成し各病院に依頼</li> </ul>
2. 圏域における協議の場の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置にむけて圏域各市障害担当部局、精神科病院に対する説明を実施</li> <li>・各市の意向を確認</li> </ul>
3. 地域移行支援(サービス利用)による対応事例数の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行支援利用者数は未把握</li> <li>・地域移行対象者をリストアップし、多職種による退院支援を検討</li> <li>・相談支援事業所に事例の相談対応を依頼</li> <li>・精神科病院内での地域移行支援の周知のための出前講座の実施を企画</li> </ul>

## 2 圏域の取組における強みと課題

### 【特徴(強み)】

- ・精神障害者の地域生活を支援するための事例検討会(研究会)を関係者で定期的に行っている(S49～)。
- ・本所及び2支所において、地域における精神保健福祉を推進する協議会を設置し、圏域全体の体制整備を図っている(H8～)。
- ・圏域内の関係者による地域移行推進のための連絡会を開催している(H27～)。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域における精神医療関連指標や精神障害関連資源等の把握とその見える化が必要である。</li> <li>・地域移行について、本人本位の支援のあり方を明確にし関係者が連携し取組みを進めていくことが必要である。</li> <li>・相談支援事業所のマンパワーの確保が必要である。</li> <li>・ピアサポーターとの協働を推進する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの連絡会をベースに実務者会議を組織し、本人本位の支援のあり方について検討を行う。</li> <li>・評価指標のリストアップと見える化</li> <li>・関係者および地域住民への地域移行に関する理解を促進する。</li> <li>・医療機関、相談支援事業所等の支援機関の役割を具体化する。</li> <li>・相談支援事業所の機能強化は市の担当部局とも協議していく。</li> <li>・事例を通じてピアの導入を勧める。</li> </ul>	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神医療関連指標等の把握・分析・課題抽出および関係者間の共有</li> <li>・連絡会の効果的な運営</li> </ul>
		医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内の理解促進</li> <li>・長期入院患者の退院支援に際して、必要と考えられる社会資源や施策について提案を行う。</li> </ul>
		福祉	
		その他関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①長期入院者患者数	589人 (H30年.6月)	38人減	
②圏域における協議の場の設置	未設置	設置	
③地域移行支援(サービス利用)による対応事例数	0人	3人	

## 3 病院（医療機関）との連携状況

開催月	内容等
6月	<p>【事業説明(圏域の精神科病院8か所)】※院長、事務長、看護部長、精神保健福祉士等 ⇒各市障害福祉計画における目標、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業の目的、地域移行対象者のリストアップの依頼など(保健所長・支所長、職員)</p>
7月	<p>【地域移行対象者(以下、事例)の検討】 ⇒各病院へ出向き、リストアップされた事例について、主治医、看護部長、病棟看護師、精神保健福祉士等の院内関係者と支援の方向性や支援チームについて検討。</p>
8月	<p>【出前講座の実施にむけた企画・調整】 ⇒院内で実施する出前講座の要望等を確認</p>
10月	<p>【事例への支援】 ⇒院内での取組みに関する相談対応、ケア会議への参画 【精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業研修会】※アドバイザー参画 ※地域精神保健福祉推進協議会研修会と共催 ⇒広域アドバイザー、密着アドバイザーによる講演</p>
通年 奇数月	<p>【実務者会議(高岡地域精神障害者地域移行推進にかかる連絡会)】※アドバイザー参画 ⇒地域移行を進めるうえでの課題と対応、事例の概要、退院支援進捗状況等を共有。 必要時アドバイザーからの助言を受ける。 ⇒地域における精神障害関連資源や強みを他職種で話し合い、地域包括ケアシステムについて考える。</p>

## 4 現時点での課題・悩み

### 【事例への支援について】

- 病院関係者の地域の社会資源の知識不足、在宅生活を見据えた目標設定と目標に沿った退院支援の具体的な看護ケアの取組みが連動されていない。
- 相談支援事業所のマンパワーが不足しタイムリーな対応が困難な場合がある。

### 【協議の場について】

#### ○圏域の協議の場について

- 市の自立支援協議会や県（圏域）地域精神保健福祉推進協議会などの既設の協議会との関係性や位置付けの整理をどのように行っていくか検討が必要。

#### ○市町村の協議の場について

- 市町村における協議の場については設置主体である市町村が協議の場の必要性を十分に理解することが必要。
- また、すでに設置されている各市の自立支援協議会との関係性やすみ分けなどが具体的にイメージできるための働きかけが必要。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 精神科病床の1年以上長期入院患者数の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科病院に対する協力要請</li> <li>・精神科病院から地域移行対象者をリストアップ(圏域で15事例)</li> <li>・実務者会議で支援状況を確認</li> <li>・事例によっては、地域のスタッフが顔を合わせて社会資源の情報提供を実施</li> <li>・地域移行支援(個別給付)の対応事例数は1事例</li> </ul>
2. 早期退院率の上昇(目標:90%以上)	上記と同様
3. 圏域の協議の場を設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関へ趣旨を説明</li> <li>・管内精神医療保健福祉機関長等会議を実施し、協議の場の設置について説明</li> <li>・R2年度からは機関長等会議を圏域の協議の場として位置付けていく予定としている。</li> </ul>

### 3 圏域の強みと課題

#### 【特徴(強み)】

- 平成17年度から管内精神科医療保険福祉機関長等連絡会議を開催し、管内すべての精神科医療機関の院長や地域の精神保健福祉機関の長が一同に会し、顔の見える関係で、情報共有・課題の検討・情報交換を行っている。
- 平成21～23年度は地域移行支援事業(体制整備コーディネーター配置)に取り組み、平成24年度からは、実務者で地域移行(退院)支援に取り組み、連絡会や研修会を開催し、課題に対する意見交換や事例検討を実施し、体制整備を図っている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
①・病院ではそれぞれ地域移行支援に取り組み、成果もでてきていたが近年は退院率が目標値に達成していない。 ・地域移行後の地域定着に向けた支援の促進。 ②個別給付の利用が進まない。 ③精神保健福祉圏域ごと、市町村ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置が明確になっていない。	①・管内の精神医療保健福祉に関するデータを揭示し現状の見える化を図り、対応策の検討を行う。 ・地域移行の推進にあたって、精神科病院に対する働きかけ・調整を図る。 ・再入院率の見える化を図る。 ②・事例検討を重ね、課題を整理する。 ・市町村の地域移行支援事業の活用・促進を図る。 ③・各市の障害福祉計画において策定した基盤調整量の共有を図り、支援者が同じ方向を向いて地域移行を促進する。	行政	保健所は、医療機関に対する働きかけ・調整 市町村に対する広域的・技術的支援 会議において、管内のデータを揭示 市町村は、障害福祉計画の推進、個別給付の促進・支給 地域包括支援センターは、医療、福祉と介護保険事業所との連携を促進
		医療	対象事例のリストアップ 病院内での退院支援の取組み推進 行政が開催する会議への協力
		福祉	相談支援事業所は、個別ケア(ケア会議の開催・参画)
		その他 関係機関 住民等	ピアサポーターの活動推進・活用

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①精神科病床の1年以上長期入院患者数	278人	(→ 減少)	長期入院患者数の減少
②早期退院率(入院後3か月・6か月・1年)	77%	90%以上	低迷している早期退院率の上昇
③圏域の協議の場の設置	未設置	設置	協議の場の設置

3 病院（医療機関）との連携状況

開催月	内容等
5 ～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>精神科病院の担当者(PSW)と打合せ</u> →事業趣旨を説明し年間計画を打合せ</li> <li>◆<u>精神科病院に対する協力要請(5か所)</u> →院長、事務長、看護師長、精神保健福祉士を対象に、事業の趣旨を説明。 圏域の精神保健福祉資料データや各市障害福祉計画における目標値を共有し、地域移行候補者のリストアップを依頼。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>管内精神医療保健福祉の機関長会議(代表者会議)を実施</u> →砺波医療圏の精神医療保健福祉の現状説明、事業趣旨や年間計画を共有</li> <li>◆<u>精神科病院の担当者(PSW)と打合せ</u> →地域移行候補者を共有、実務者会議の進め方を共有</li> <li>◆<u>第1回地域移行(退院)支援連絡会を開催</u> →入院患者の退院支援に関するアンケート結果報告、事業趣旨と年間計画、密着アドバイザーの紹介とアドバイザーによる講義、精神科病院の地域移行対象者の状況について共有</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>各精神科病院における地域移行対象者の進捗管理について確認(情報共有)</u></li> <li>◆<u>精神科病院の病棟カンファレンスに出席(1か所/5か所)</u> →第1回の連絡会を契機に精神科病院では精神保健福祉士が中心となり、既存の病棟カンファレンス等を活用し対象者の支援検討を実施することに繋がった</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>第2回地域移行(退院)支援連絡会&lt;兼研修会&gt;を開催</u> →各精神科病院における対象事例への支援状況を共有、広域アドバイザーによる講演、圏域の強みを確認するグループワーク</li> </ul>



4 現時点での課題・悩み

課題	悩み
<p>◆市における協議の場の設置に関する協議が必要。 (どの課が実施主体となり、その場で何を協議していくのか、方向性が不明瞭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市障害福祉計画に地域移行は明記されているが市の意識は低い。</li> <li>・市との連携の在り方。</li> </ul>
<p>◆自立支援協議会が3市合同で設立しているため、各市単位で協議する場が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市障害福祉計画の進捗管理のためにも、各市単位で協議する仕組みが必要。そのきっかけをどう仕掛けていくか。</li> </ul>
<p>◆地域移行支援(個別給付)の件数の増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用のメリット、デメリット等を検討しながらの推進が必要。</li> </ul>
<p>◆本事業の具体的な評価指標を整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域の状況をどう評価していくか、精神保健福祉資料等のデータも活用した地域アセスメントが必要。</li> </ul>
<p>◆全精神科病院においてある程度一律の体制で地域移行を進めていくこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院によってはすでに独自の退院支援プログラムや病院ごとのケース検討の場がある。一律の体制をとることが難しく、現在、地域移行対象者の進捗管理は病院主体でお願いしている。</li> </ul>